

病院における激突災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労働 者規 模
1	1~2	病棟夜勤業務の際、病室を巡回していたところ、病室入口付近にある室温調整器のカバーに右肩を強打し負傷した。当時屋内には電気がついていなかったため暗く、室温調整器のカバーが見えにくかった。（以前にも同じ所で右肩を強打している。）	53	50~ 99
2	11~12	訪問診療より帰院した際、総務に処方箋を取りに荷物を持ったまま裏口より入る時、段差につまずき受傷した。	44	100 ~ 299
2	9~10	調理室内で炊き上がった大釜をテーブルへ移動している途中、前から歩いて来たスタッフを避けた際、開いていた調理器具乾燥機の扉を持っていた大釜との間に手を挟んでしまい左示指を切創したとの報告を受けた。	67	300 ~ 499
3	14~15	敷地内の駐車場脇の斜面を草刈機にて草刈り中、バランスを崩し転倒しそうになり、高所より飛び下り、下がコンクリートだったため、着地した際に右足第5指をぶつけ転倒した。そのあと腫れが引かず、右小指基節骨骨挫傷と診断された。	48	100 ~ 299
3	2~3	救急外来で夜勤中、救急患者が多く当日は休憩もとれない状況であった。午後より記録整理のため、処置室のパソコンを使用し、椅子に座っていた一瞬意識が遠のき、ふらついたため椅子から転倒し、左上腕肘から肩にかけて強度の打撲を負った。	58	1000 ~ 9999
4	5~6	夜勤明け3階勤務室から病棟用の新聞を取りに勤務室にある非常口の出入り口を出る時、夜勤明けの疲労による注意力の低下のため左足首を痛める。夜勤者は通常、新聞受けが近いので非常口より外階段を使うことが多い。非常口の出入り口は15cm位の段差で、当時は履き慣れた靴を履いていた。	45	100 ~ 299

4	8~9	患者食事後に配膳車を引っ張る形で移動させていたとき、自動ドアが閉まりそうであったが通り抜けられると思い、そのまま移動させたところ、左手首に自動ドアがぶつかり、左手首を骨折した。	55	~ 299	100
4	15~ 16	患者様を車椅子に乗せて廊下を移送していたところ、後方のワゴンにぶつかってしまった。ワゴンには空の感染BOXが何個か積まれた状態で、その感染BOXが腰部に当たってしまった。患者を移送中だったため、ぶつかった際に受け身姿勢がとれず、腰に激痛が走りその場から動けなくなり、腰椎捻挫を負った。	32	~ 999	500
4	10~ 11	2人でオムツ交換時、病室にてオムツ交換を行った。その後、左側に立ったまま左側臥位に体交を行ったが、患者の右足がベッド柵に当たりそうになったので、右手で患者の膝を支えようとし、ベッド柵の間に右第1指~2指間を打撲した。	62	~ 299	100
4	15~ 16	ナースステーションにて電話対応しており担当者に電話をかわろうとした時に、カウンターと机の間が狭く動きづらく他職員が来られた時のはずみでイスをよきれず左アキレス腱付近を負傷した。様子を見ていたが痛みが治まらず、歩行に違和感がでた。	25	~ 99	50~
5	15~ 16	業務中に床にボールペンを落としてしまい、拾い上げようとした際に手すりでものを強打した。	34	~ 9999	1000
5	2~3	訪問入浴を利用している利用者様宅で、入浴後ベッドに利用者様を移動し服を着衣した後、利用者様のベッド上での位置を整える為、頭側から利用者様の両脇に手を入れて引き上げる際にベッド枠に肋骨を打ちつけた。	51	~ 299	100
5	11~ 12	職員食堂内にて、他職員が職員食を職員食堂内の冷蔵庫近くでこぼした為、他職員と共に清掃している最中に、もう1人の他職員が冷蔵庫の扉を開けていることに気付かず、立ち上がった際に冷蔵庫の扉にて背中を強打した。	41	~ 299	100
5	7~8	地下にあるロッカーで着替えて勤務場所（5階）に向かう途中、階段に左足を強打した。	19	~ 999	500
		5F病棟にて、オムツ交換のため1人で病室に入る。患者の右側に立ち、柵を外さ			100

6	8~9	ずにオムツ交換をした後、体位変換で体位を手前に引き寄せたところ、ベット柵が左胸部（左肋骨）に当たり（バキッという骨折音あり）左肋骨骨折した。	52	~ 299
7	10~11	納品作業をしているときに、入り口フェンスの鍵を開けようとしたが、暗くて見えないため、鍵を開けることが出来なかったため、腰高のフェンスを飛び越え敷地内の進入しようとしたが、着地に失敗し左足首負傷した。	52	~ 499
7	15~16	救急外来初療室の入口近くの観音扉が患者をストレッチャーで搬送中、突然、閉まってきたため、ストレッチャーにぶつからないようにとっさにストレッチャーと扉の間に入り、扉の取手が、後頭部下から背部に当たり受傷。受傷後、約1~2時間後、打撲痛以外後頸~右肩にかけてのビリビリした痛みが徐々に強く増悪していった。	49	~ 999
7	17~ 18	当院病室にて、認知症で暴言・暴力的な行動が見られる患者さんの食事介助をしていた際、患者の口にご飯を入れた瞬間、吐き出したため、その勢いで患者の手が顔付近に来た。その際、反射的によけたが勢い余って壁に激突し、背中および腰を強打した。その10分後に痛みが強くなったため病院を受診したところ、腰・背部打撲により、1ヶ月程度の療養が必要と診断された。	46	~ 499
9	13~ 14	休憩が終わり、午後の勤務につく前に総合受付内を移動中、コピー機の横に置いてあった封筒入りのダンボール箱（250×400）に左膝下を打撲し受傷した。数日後、左下腿後面に疼痛・腫脹がみられ徐々に憎悪した。	49	~ 999
10	12~ 13	ボランティアによる演奏会の準備を行う最中に急ぎ階段を下りようと、2段飛ばしで降りた時、着地の際に左足を捻り、腓骨を剥離骨折する。	28	~ 999
10	8~9	ベッド上の寝たきりの患者の体を他の看護師と2人介助で、自分の位置より奥へ移動させる時、自分側にあったベッド柵に右胸を強打した。	52	~ 499
10	10~ 11	乾燥した洗濯物を仕分けしようとして足を一步踏み出した時に、台の下にあるスノコに右足小指が当たり、痛みが生じた。その後、痛みと腫れが強くなってきた。骨折と診断された。	63	~ 999

11	17~ 18	病院内3階食堂において入院患者の食事のための移動の付き添いをしていたところ、患者が椅子を引いた際に後ろ向きに倒れそうになったのを支えようとしたが、体勢を崩し患者の下敷きになる形で転倒した。その際に左の股関節を損傷してしまった。	39	50~ 99
12	17~18	勤務を終えて、当院別館の階段を下りようとしたときに、一瞬意識がなくなり、気づいたときには、階段の下に座り込んでいた。その際、右下肢に痛みを感じたため、病院を受診した。	68	100 ~ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html